



岐阜高専創立50周年
若鮎連携事業室統一口ゴ



創立50周年を機に持続・発展する若鮎会に

早いもので岐阜高専創立50周年を迎え、既に9ヶ月を過ぎようとしておりますが、皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じます。また、募金をはじめとして各種記念事業推進に多大なるご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

記念の年に当たり、4月には創立記念碑設置と植樹を行い、11月には50年史の発行や記念式典が催され、懐かしい先生方や会員相互との交流を深めることができました。計画した記念事業の一部(記念ロードへの桜植樹や市民向け講演会)は日程等の調整により、来年度以降への引き継ぎ事項となります。引き続き宜しくお願ひ致します。

6月に発行致しました「若鮎会報2013」において、各科の同窓会組織の活動や学校並びに地域社会との産学官連携の多彩な活動が展開されていることを御理解頂けたことと思います。これらはひとえに創立期卒業生の

諸先輩方のご尽力と、学校と卒業生のかけ橋となつて頂いております教職員皆様のご努力の賜物であります。そしてその活動を持続・発展させていくためには、卒業生の方々が生活のサイクルに応じた形で順次参画して頂くことが重要と考え、次なる時代に向けてより一層、若鮎会報やホームページ等の情報発信を継続していく所存です。

2017年3月は50回目の卒業式を迎え、若鮎会も創立50年となります。半世紀にわたり社会へ巣立った優秀な技術者達は、力強い日本の原動力となっています。今後とも会員相互の強固なネットワークを十分に活用し、全世界で活躍されますことを祈念致します。



若鮎会会长・3期生・坂井善幸

岐阜高専の次なる50年を見据えて

(詳しくは岐阜高専50年史「序文」を是非ご覧下さい)

高専制度創設50周年を迎えた高専機構は、時代の要請に応え、先取りするために、次の50年に向けて「進化する高専」を掲げ、高専の「高度化」と「国際化」を、そのための重要な柱と位置付けている。

岐阜高専は、この動きに呼応し、教育の「高度化」のために、技術の蓄積を「技術士」資格として持つ岐阜高専OBの力を借り、社会の技術の進歩を反映させた教育プログラムを開発している。さらに、地域貢献の一環として、岐阜高専OBの力を借りて地元産業界の若手技術者の育成直しのためのプログラム「中核人材育成塾」も提供している。これらの取り組みにより、本校には「平成24年度日本工学教育賞(業績部門)」が授けられた。

岐阜高専校長 北田敏廣

もう一つの柱である「国際交流」については、平成25年度は、TYKLtd.2名、バンドン工科大3名、マレーシア工科大3名、ハノーバー大2名、アイオワ大3名の合計12名の専攻科生を海外インカーンシップに送り出すに到っている。



次の50年に向けて、本校は、教育・研究・地域貢献の推進のために、「地域交流の核としての岐阜高専」を目指し、「ビジターフレンドリーな岐阜高専」を実現してゆく所存である。本校50周年記念募金等の各種50周年記念関連事業への多大なる貢献をはじめとする、これまでの本校同窓会「若鮎会」会員各位のご支援に感謝するとともに、これからも引き続き母校への変わらぬご支援をお願いする次第である。

創立50周年記念式典文部科学大臣祝辞

本日ここに、岐阜工業高等専門学校創立五十周年記念式典が盛大に挙行されますことを心よりお喜び申し上げます。

岐阜工業高等専門学校は、中堅技術者の育成に対する産業界からの強い要請に応えて、昭和三十八年に創設され、これまで高度な専門知識と実践力を身につけた優秀な技術者を数多く社会へ輩出され、多くの実績を積み上げてこられました。

この間、岐阜工業高等専門学校は、国際的に活躍できる実践的技術者の育成に積極的に取り組まれ、インドネシアのバンドン工科大学、マレーシア工科大学、ドイツのハノーバー大学、米国のアイオワ大学などと包括交流協定を締結され、学生の海外インターンシップや教員の学術交流等を実施されるなど、グローバルに活躍できる技術者の育成を進めてこられました。

また、地域の産業技術の拠点として、産業界との連携活動においても着実に成果を上げてこられ、「岐阜高専地域連携協力会」では、地元企業との共同研究や、産業人材の育成等、地域産業の振興及び発展に貢献しておられます。

これまで、時代と社会の進展とともにたゆまぬ前進を続けられ、創立50周年を迎られましたのは、北田校長をはじめとする歴代の校長、教職員の皆様、高専を支援してこられた数多くの皆様の御尽力の賜物であり、関係各

文部科学大臣 下村博文

位のこれまでの御貢献に心から敬意を表します。

近年の社会経済環境の変化や知識・技術の高度化に伴い、五年一貫の実践的専門教育を行う高等専門学校への期待はますます高まっており、文部科学省といたしましても、高等専門学校の更なる発展のために必要な支援に努め、将来の我が国を担う実践的・創造的技術者の育成に一層力を注いでいきたいと考えています。

岐阜工業高等専門学校におかれましては、『科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで、情報化社会の最前線で活躍する技術者を養成する。』という教育理念のもとで、産業構造の国際化や高度化に柔軟に対応できる人間性豊かで倫理観を備えた技術者の育成に一層努められますことを期待しております。

結びに、本日御臨席の皆様におかれましても、引き続き岐阜工業高等専門学校に対する御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、岐阜工業高等専門学校のますますの発展を祈念し、お祝いの言葉をいたします。

平成二十五年十一月十六日

文部科学大臣 下村 博文

創立50周年記念碑建立および除幕式典森名誉教授祝辞(H25.4.22)

ここに岐阜工業高等専門学校は建学50周年を迎えて、記念事業の一環として「50年史」が発刊されます。私も鵜沼仮校舎時代の回想を「開校の寸描」と題して投稿を終えました。

余談になりますが、節目毎の記念物として、30周年は「30年史」の外にタイピンが、40周年は年史は無くて、首から吊すボールペンがそれぞれに記念品として用意されておりました。それが、この度の50周年には若鮎会の一念発起で本校と鵜沼仮校舎跡に記念事業として、立派な記念碑が建立されました。

また、桜の苗木50本が植樹されることになっています。

この度の偉大な事業である記念碑建立の構想は、私の陋屋が高専に近いこと也有って、若鮎会有志の方々が、十数年前から来訪されて、各方面から集められた沢山の資料をもとに、熱意溢れる準備実行談を開きました。聞き役のみで、何等お手伝いも出来ずに、内心忸怩たる思いであります。

岐阜工業高等専門学校は、学制としては前例がない、全くの新制度の高等教育機関であります。昭和三十八年四月一日、時の文部大臣から文部教官教育職を拝命した新任教官十二名は早速一期校を視察見学等をして、開校の準備をしました。そして十二名の事務官、三学科百二十名の学生は目出度く鵜沼の仮校舎で四月二十二日に開校式入学式を挙行しました。翌二十三日には、建学の高邁な理想を掲げて意氣軒昂の高専教育が開始されました。

そして昭和三十九年三月十八日、いよいよ鵜沼の仮校舎に別れを告げる日がきました。この日は校長をはじめ教官、事務官、学生寮母さんは引越し前の天手古舞い大忙しでした。そんな中で学生は三学科に別れて、せたけ3mの桜の苗木を記念植樹しました。

他の作業も一時中断をして、ほぼ円陣状に集合して、小学校の校長先生から「はなむけ」の言葉がありました。

鵜沼仮校舎・寄宿舎(学寮)の思い出 元教務係長 永田 重利

私が岐阜工業高等専門学校の職員としてお世話になったのは、昭和三十八年四月から昭和四十八年二月までで以後は、文部省(大臣官房人事課専門員)に転任するまでの約十年間です。その間創立直後の学務係長、教務係長、庶務係長を務めさせていただきました。

それ以前は、岐阜大学教育学部(当時は学芸学部)の職員として約十四年間務め、大学の教務係の業務を担当しておりましたが新しく創設された工業高等専門学校の学務(教務及厚生の業務に併せて学寮:寄宿舎)の運営を担当することになり転任を命ぜられました。私は、大学での教務関係の業務はほとんど経験し、周知していましたが、さて新しい工業高等専門学校で世話ををする学生の年齢は、十六才の中学校を卒業した者たちであり、國の方針、目的として「戦後における我が國の発展にともなう技術革新とその発展を担う中堅技術者を養成する学校として創られた」学校だと聞いてはいたが、着任してみたら現実的に学校の校舎は、改造中で机もなければ椅子もない、事務室もなければ、紙も鉛筆一本もない。ないないはずくしの状態で今後どうなることかと唖然とした。机や紙その他の備品は、金を出しておいおい備えれば手に入る。これから新しく何もかも創られると云う状態の中であったが、入学する学生はすでに十四倍からの中学校卒業生から厳選ぞして選抜された優れた学生百二十二名が決定しており、受け入れをしなければならない状態がありました。

創立当時の学務係長として着任したもの、新しい学校制度の学校の学務事務は、どのようにしてやるべきか、全く解らず思案にくれたものでした。特に学務係は、学校事務業務の他に、学生は全寮制であったのでその業務、寄宿舎(学寮)の管理運営と学生の世話も担当しなければならなかった。寄宿舎の管理運営について

「みなさんのお気持が身にします。ありがとうございます、今後も変わることなく一生懸命に勉強して下さってどうぞ、この若木のように、どこまでも高く伸びて下さい。」目がしらを押さえる者もいた。それから半世紀の今日、「大きく伸びた」「岐阜高専」の「若鮎会員」が鵜沼の仮校舎で「高専教育」が発展できた報恩の発露として「でかい」事をやってのけました。

鵜沼の仮校舎の近くに住んで、時折寮生とも生活をともにした私に、この度の行事について、祝辞を述べよと大役が与えられました。文言の縮小に務めましたが、このように長くなってしましましたが、これで終ります。この度の若鮎会の壮舉に、何よりもまず最大の敬意を表するものであります。そして、こんな目出度いことは他にありません。若鮎会の皆さんおめでとうございます。

平成二十五年四月二十二日

岐阜工業高等専門学校

名誉教授 森 基 要



記念碑筆耕者永田氏・森名誉教授・越川名誉教授(4/22)

経験者にその方法を尋ねようとしても、校長先生以下教官の中にも事務職員の中にも誰一人として話す相手もなく、経験者は無論なく聞くことも尋ねることもできませんでした。

当時の学務係の担当には、事務職員二名、栄養士(まだ短期大学を卒業したばかりの可愛いお嬢さん)一人、非常勤の炊事担当の職員三名で、学務関係の他に百二十人の学生の寝食の世話、生活の世話をしなければならない大変な業務がありました。

ある時、校長先生に寄宿舎の運営について「どのような方法で、どのように運営したらよろしいか」と尋ねました。校長先生は、「あなたは、どのように考えているのですか」と尋ね返されました。そして「私は、あなたに寄宿舎の運営をお任せしお願いしているのです。あなたの持っている理想と考えで自分の思うようにやってください。責任は私が取ります。お願いします」その一言で、私は「よーし」暗中模索ではあるが、学生達の親となり、兄貴となって世話をすることを心に誓いました。

第一期の学生の皆さんには、仮校舎での一年間の勉学、生活には数えきれない程の思い出があることでしょう。私にもこの時は、寄宿舎の運営で学生の皆さんや係員、そして先生方に助けられながら無我夢中で過ごし、温かい家庭的な寄宿舎作りに頑張った人生の良き経験であり、良き思い出がありました。

こんな寄宿舎生活で得てくださった短い一生の一部分でしたが、このことを糧として岐阜工業高等専門学校寄宿舎の伝統を作り、卒業し、雄飛して日本の工業の発展に努力し今日の日本を作ってくださったものと信じています。

お互いに辛く苦労した仮校舎での寮生活が、一つがなく終わらせて頂けたことを感謝しています。

皆さんありがとうございました。

創立50周年記念式典

岐阜高専創立50周年記念式典は、快晴のなか岐阜グランドホテルロイヤルシアターにて盛大に開催された。若鮎会からも歴代の会長、第19期(現在)の役員、50周年記念事業実行委員会関係者、および高額寄付者等が参列した。

開式の辞、国歌斉唱、校長式辞に引き続き、来賓祝辞が文科省、機構本部、岐阜県知事、本巣市長により述べられた。その後、祝電披露、岐阜高専校歌斉唱と続き、約1時間の記念式典は閉式の辞によりしめられた。

式典においては、本校創立50周年特別功労者表彰として、岐阜高専の地域連携協力会の創立・運営および50周年記念募金活動等への多大なる貢献を顕彰し、牛込進地域連携協力会会长と大庭忠明副会長に対して岐阜高専より表彰状が贈呈され、50周年特別功労者表彰副賞として記念の時計が若鮎会により贈呈された。

創立50周年記念講演会(豊橋技術科学大学長 榊 佳之 氏)

創立50周年記念式典に引き続き、岐阜グランドホテルロイヤルシアターにて、「先端技術が拓く新しい医学・医療の世界～遺伝子医療を中心に～」として、豊橋技術科学大学・榊佳之学長による特別講演が行われた。

京都大学の山中教授によるノーベル賞受賞を契機として、日本の今後を左右する医療・Life Science分野の最先端のトピックスとしてNHKの科学特集等でも取り上げられることの多い遺伝子医療を中心とした講演が、多くのスライド等を用いて魅力的に紹介された。岐阜高専の専攻科の大括り化後の地域密接型の3つの先端分野の一つに、医療・福祉関係の講座を予定しており、岐阜高専の次なる50周年の最初を飾る記念講演となった。

創立50周年記念祝賀会

記念講演会に引き続き記念祝賀会が、岐阜グランドホテル・ロイヤルホールにて、盛大に開催された。

北田校長による開会の挨拶に引き続き、来賓祝辞が豊橋技術科学大学長、岐阜大学長、および、長岡技術科学大学長により披露された。引き続き、岐阜工業高等専門学校地域連携協力会の株式会社TYK牛込進会長と西濃信用金庫理事長大庭忠明副会長による祝辞の後、本校校長と来賓各位による鏡開き、第5代・小崎正光校長による乾杯の後、歓談となった。

若鮎会高専創立50周年記念事業実行委員会

若鮎会の創立50周年記念事業実行委員会は14回に及ぶ実行委員会を2年にわたり開催し、次の事業を慎重に審議し、学校関係者との調整等を進め、成し遂げてきた。主な行事等を紹介し、ここに実行委員会メンバー(7p)を顕彰するものである。

- ・H25.4.22 創立50周年記念碑復元・建立(鵜沼・本校)
- ・H25.6.11 若鮎会会報2013発行
- ・H25.11.16 創立50周年記念式典・祝賀会・50年史発行
- ・H25.12.16 若鮎会会報2014発行
- ・H25.12.31まで 50周年記念募金(2,500万円を目標)
- ・各務原市へ桜50本寄附(記念ロード創設)等。
- ・50周年記念品の頒布(ピンバッジ・記念シール・ロゴシール・50年史CD版・記念タオル)



若鮎会により特別功労者表彰副賞が贈呈された牛込会長と大庭副会長および50周年記念募金活動への多大の貢献を特別功労者表彰された教育後援会・小里悟会長と若鮎会・坂井善幸会長



豊橋技術科学大学榊佳之学長による50周年記念講演



北田校長と来賓各位による鏡開き



実行委員会メンバー

岐阜高専創立50周年記念事業紹介(若鮎会関係分)

岐阜高専創立50周年記念ノベルティ等一覧

- ・鵜沼と本校への記念碑建立と記念植樹(2箇所)
- ・各務原市へ桜50本寄附(記念ロード創設)
- ・50周年特別功労者への副賞授与(2名)
- ・製本版とCD版の50年史の頒布(1,000冊・10,000枚)
- ・50周年記念品の頒布(ピンバッヂ・記念シール・ロゴシール)
- ・「若鮎基金」の継続(500万円)
- ・各種母校記念事業への共催と助成
- ・50周年記念募金への協力
(総額2,500万円)
- ・50周年記念タオルの頒布
(1,000本)



岐阜高専の近況報告(研究主事・所)

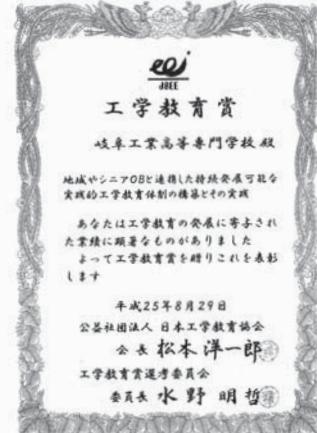
岐阜高専は若鮎会との連携を創立50周年を期に一層活性化すべく、シニアOBと連携した各種事業を計画・推進してきております。

1. シニアOBの意見を反映し平成23年度より専攻科カリキュラムに「ビジネスアカウンティング」と「プロジェクトマネジメント」を導入しました。
2. 平成23年度より研究主事傘下に「若鮎連携推進室」を立ち上げ、並行して立ち上げた若鮎会の「若鮎連携事業室」とともに、地域の中核人材育成塾活動を積極的に展開しています。
3. リテラシー教育活動や各種プロジェクト活動を産学官連携アドバイザーのOBによりサポートする活動を推進しています。
4. 建設技術士有志会のOB技術士により、主に環境都市工学科の本科の教育を支援しています。
5. 岐阜高専創立50周年を期に、若鮎基金をはじめ、卒業生と母校・在校生の連携を推進していきます。
6. 若鮎会会報を全卒業生と名誉教授を含む教員・学校関係者に配布し、同窓会員への情報発信内容の共有を進めました。

7. 若鮎会作成の50周年記念の各種ノベルティーを、関係者全員に配布しました。

8. 若鮎基金に500万円の増資を頂きました。専攻科生の海外インターンシップ派遣も助成対象としました。

9. 以上や他の成果が認められ日本工学教育協会から「工学教育賞」を岐阜工業高等専門学校として授与されました。卒業生諸氏のご協力に感謝しますとともに、引き続きの支援を是非、よろしくお願いします。



現役・シニアOB協力者募集(若鮎連携事業室・建設技術士有志会)

1997年、2002年に同窓会名簿を発行して以来、若鮎会の活動の見える化はホームページでの情報発信程度であります。学生向けにはその支援活動等を拡充し推進してきましたが、卒業生に向けての情報発信は不足しがちでした。

このたび、5年以上の歳月をかけてシニアOBと学校間の連携を進め、卒業生による非常勤講師の実施、カリキュラムの改定、産

学官連携アドバイザー等による若鮎連携事業室や建設技術士有志会活動等、シニア卒業生を中心とした母校及び地域との関わりを積極的に推進してきました。

母校の創立50周年を期に、これらの活動を全会員に紹介し、引き続く次世代OB・OGの参加を是非ともお願いする次第です。

(岐阜高専副校長 若鮎連携推進室長 所)

若鮎連携事業室の中核人材育成事業の紹介 <http://www.gifu-nct.ac.jp/techno/index.htm>

若鮎連携事業室は、若鮎会のシニアOB・OGによる地域連携協力組織です。母校の教育・研究のサポートと共に、独立採算で中核人材育成塾活動等を推進しています

定年退職前後で、教育・研究活動や地域連携活動に関心のある卒業生諸氏の新規参加を是非お待ちしています。関心のある方は是非、学校窓口の研究主事か総務課総務・企画係をおたずね下さい。



今年は5学科から23名の産学官連携アドバイザーに登録頂いて、地域連携活動に協力頂いています。

有料化して自立化が進む大好評のシニアOBによる中核人材育成塾活動の様子(左写真)と募集チラシ(右の図)



機械工学科同窓会「機巣会」近況報告

機械工学科では平成25年度に2名の先生が定年退職されることになりました。

稲葉金正先生は、平成15年4月に民間企業から赴任され、主に機械工作法と1年生から4年生までの工場実習関係の教育を担当されました。クラブ活動では、ロボット研究会での指導にご尽力され、毎年行われる高専ロボコンでは、岐阜高専を全国大会出場の常連校とともに、数々の賞を導いてこられました。

山村基久先生は、平成17年4月に民間企業から赴任され、主に機械設計法と1年生から4年生までの設計製図関係の教育を担当されました。学生・寮務会議委員、学級担任をご歴任されるとともに、クラブ活動では、美術部での指導にご尽力されました。

お二人の先生とも民間企業出身であることもあります、その経験を高専教育に大いに生かして頂き、学生にも非常に慕われる存在がありました。今後の益々の御活躍をお祈りしたいと思います。

機巣会会长・
4期生・中野廣幸



※近日中に、機巣会ホームページを岐阜高専機械工学科ホームページ内に立ち上げる予定です。各期同窓会への補助等、機巣会の情報はこちらをご覧ください。(石丸)



改修が竣工した機械工学科棟

機巣会役員 平成25年5月現在

卒期	役員名	氏名	備考
M4	会長	中野 廣幸	
M1	副会長	桑原 喜代和	
M10	副会長	白木 貞光	
M2	会計	岩井 静克	
M24	会計監査	山田 実	岐阜高専勤務
M18	会計監査・事務局	石丸 和博	岐阜高専勤務
M28	事務局長	山本 高久	岐阜高専勤務

電気情報工学科同窓会近況報告 <http://den-en.org/>

電苑について

平成25年11月吉日

電気情報工学科同窓会会長・2期生・坂 隆逸

今夏は記録的猛暑の連続でしたが、当会員の皆様には 益々ご健勝、ご活躍のことと お慶び申し上げます。平素から母校ならびに同窓会の活動や事業に、また母校創立50周年事業活動や募金活動へご協力を賜り、深く感謝致します。また電気情報工学科の諸先生方にはひとかたならぬご指導、ご教授を頂き厚く御礼申し上げます。

さて 電苑編集会議で<電気情報工学科同窓会に名前が欲しい>と提議がありました。岐阜高専 同窓会は若鮎会、機械工学科同窓会は機巣会、環境都市工学科は土木会、電子制御工学科は せいふう会、建築学科は いちい会と名前がありますが、当会だけがありません。電苑の響きには愛着があり、<電苑>にとの意見が多数を占めました。「電苑」は岐阜高専電気工学科の学生文芸誌として発刊され、今では 電気情報工学科同窓会誌の役割を担っています。については当会名称を<電苑>、本会誌は<電苑誌>と呼称する予定です。皆様方のご理解を頂ければ、幸甚です。

最後に益々の母校発展と、会員皆様方のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

主な電気情報工学科同窓会行事

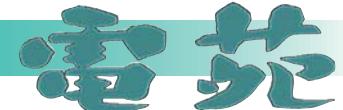
H25.12.12 電苑2013発行予定

H26.12.12 電苑2014発行予定

H27. 1 稲葉先生最終講義を予定

H27. 5 第6回合同クラス会を予定

※非常勤講師募集: [電気回路2など次年度非常勤](#)を募集予定です。
若鮎連携推進室の所担当までご連絡下さい。



また、「電苑」のホームページも新規開設しました。サーバ容量を確保し、大幅に内容の充実を図っています。創設期のシニアOBと連携して、全電気情報工学科卒業生と、母校現役学生や教職員との連携のポータルサイトを目指しています。

コンテンツ提供、コンテンツ管理ボランティアを募集しています。是非、ご協力ををお願いします。

岐阜高専電気情報工学科同窓会役員

任期:2012年10月~2014年3月(再任可)2012年10月

期	役員	氏名	備考
2E	会長	坂 隆逸	
6E	副会長	小島 隆好	
12E	事務局長・会計	熊崎 裕教	岐阜高専勤務
38E	事務局	白木 英二	岐阜高専勤務
5E	事務局・会計監査	桜井 邦彦	
11E	オブザーバー	所 哲郎	岐阜高専勤務

環境都市工学科同窓会「岐阜高専土木会」近況報告

C科卒業生の皆様には、益々お元気でご活躍のことと存じます。さて、本年岐阜高専創立50周年を迎えるにあたり、多くの会員の皆様方から(募金へのご協力等)を頂き誠にありがとうございます。しかし、未だ募金目標額(約2,500万円)に達成せず、まだの方がありましたら早急にご協力をよろしくお願ひ申し上げます。次に、C科同窓会動向などについて報告します。

1)「岐阜高専土木会」

各期の幹事が集う役員会を(7/20:岐阜高専C科教室)で開催し、本年度の名簿作成日程等を確認し、新役員を選出しました。

岐阜高専土木会新役員名簿

卒期	役職	氏名
C25	会長	松井 智一
C26	副会長	中田 恵介
C27	//	加藤 知也
C28	会計(名簿担当)	岡田 和輝

2)「岐阜高専建設技術士有志会」

中部地方在住の技術士有志(49名)で構成され、本年度総会が(8/9:岐阜市内)北田校長と環境都市の先生3名の来賓を迎え会員25名出席のもとで盛大に開催されました。本年度も学生の授業支援(1年と4年生)を継続することを承認し、新役員を選出しました。今後も一層、学校側からOB支援が求められるところです。

岐阜高専建設技術士有志会新役員名簿

卒期	役職	氏名
C 5	会長	坂口 義博
C 5	副会長	所 輝雄
C11	//	竹林 和俊
C 7	//	西澤 正博
C18	会計(兼書記)	太田 輝美

岐阜高専が50周年を迎える本年を契機に、各々の分野で活躍するC科OBが一層絆を深め、これまでの知識や経験を生かして、学生支援や社会貢献等に寄与することを強く願います。

会員の皆様方のご多幸とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



「岐阜高専建設技術士有志会」総会記念写真:H25年8月9日(金)

建築学科同窓会「いちい会」近況報告

この度は、岐阜高専創立50周年記念事業に寄せて、大勢の方々にご寄付と記念誌へのご寄稿を賜り有難うございました。記念式典は平成25年11月16日に盛大に行われました。また、寄付金は図書館の蔵書購入や学内の施設整備等に有効に使っていただけます。

さて、建築学科の「いちい会」の現状を報告します。

いちい会の活動は、平成10年頃以降まったく機能していないのが実情です。過去には各期の学年幹事が集まって総会などを開催していたと記憶していますが、名簿の整備や会費の徴収も、その頃を最後に何も行っていないようです。

今回の創立50周年記念事業の活動として、各学科が卒業生名簿の更新に取り組みました。建築学科は、下村先生が事務局をお引き受けくださり、先生のご尽力で更新に取り組みましたが、他の学科のように組織として機能していないため、先生には大変なご負担をお掛けしました。創立50周年の記念事業を卒業生に連絡するための通信費用等は、幸いにも以前に卒業生から徴収したいちい会会費が存在していたため、これも下村先生が規約改正等の作業をしてくださり、ようやく使わせていただくことができました。

名簿整備や記念誌の寄稿依頼のために、先生方にご協力いただき卒業生に連絡をした結果、これをきっかけとして一部のクラスでは同窓会などを開催されたようです。私の1期生(通算6期)も昨年8月に十数年ぶりの同窓会を開催したところです。

「いちい会」再建のためには各期毎の学年幹事さんの存在が必須条件となります。各期には、同窓会の幹事さんがお決まりのところもあると思いますので、この機会にいちい会の学年幹事役をお受け頂けないかとお願ひする次第です。ご協力いただける方は、事務局の下村先生までご連絡をお願いします。また、幹事が決まってないクラスは早々に決めていただくよう要請します。

他の学科のような活発な活動を望むものでなく、建築学科卒業生1,300余名の「いちい会」が、まずは若鮎会のメンバーとして正常に機能することを望むものです。在校生の面倒で多忙な下村学科長にこれ以上頼るのは誠に酷であります。名簿整備等は引き続き行ってゆきますので、皆様のご理解とご協力を切にお願いいたします。

いちい会会長 川島幸美津

いちい会名簿作成のためのアンケート回収状況

いちい会では昨年の9月頃より、Eメールによる名簿アンケートを配信し始め、そして、今年になって葉書による回収も試みました。その回収結果が次の棒グラフです。横軸は卒業期で、卒業年と対応するように示しましたが、幹事役の方がお見えになる年度の回収率は高くなっています。今後は各期で返信頂いた方にEメール等で直接「搜索依頼」をするなどして、この把握率を向上させる所存ではありますが、まだアンケートに回答されていないお知り合いがお見えでしたら、この活動をお伝えくださいとお願い申し上げます。

学科長 下村波基 hag@gifu-nct.ac.jp



電子制御工学科同窓会「せいふう会」近況報告

せいふう会会員の皆様

「せいふう会」会計 9期生 北川 輝彦

D科卒業生OB・OG会「せいふう会」会員の皆様には益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

・臼井先生ご退職の報告

今年度にて臼井敏男先生が定年退職となりました。1991年から2014年の23年間電子制御工学科にて主に半導体、電気、電磁気の科目の教鞭をとられ、電子制御工学科OB・OG出身のほとんどの学生がお世話になったのではないかでしょうか？つきましてはせいふう会としましては来年度予定しております合同同窓会に伴い、臼井先生の退職祝賀会も同時に開催したいと考えております。臼井先生とご縁のある多数のOB・OGのご参加をお待ちしております。



・最近のせいふう会の活動

本年度高専祭(10月27日)において、2013年度第2回せいふう会幹事会を開催いたしました。この会議では主に以下の3点の議題について話し合いました。1)50周年同窓会に対する寄付金(50万円)、2)D科ホームページの更新費の支出(20万円)、3)来年度のイベント開催ならびにその時期についてです。

議題1)、2)についてのせいふう会からの支出金は幹事会にて認証され、全幹事の過半数の承認を経て執行予定です。

議題3)のイベントに関しては前回の合同同窓会から5年目であることと、冒頭の文で紹介しましたように今年度にて臼井先生が退職されることを鑑み、来年度に実行されるのが妥当であるとの判断がされました。また開催時期については検討段階ですが、現状では夏季(お盆の頃)を予定しております。多数のご参加をお待ちしております。

また岐阜高専は今年、創立50周年を迎える岐阜高専全体の同窓会である「若鮎会」と提携して記念行事イベントへ協力する所存です。ご理解並びにご協力いただければありがたく思います。末筆ながら、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

せいふう会役員名簿 平成25年5月現在

せいふう会役員名簿 平成25年5月現在

期	役員名	氏名	備考
4期	会長	松村 敬光	
6期	副会長	橋本 知也	
9期	会計	北川 輝彦	岐阜高専勤務
2期	会計	畠中 裕司	
10期	会計監査	鍵井 清幸	
1期	オブザーバー	村山 智	

若鮎会執行部・50周年委員会・事務局教員一覧(H24-25年度・第19期)

岐阜工業高等専門学校 同窓会 若鮎会 Ver.2013.6.1

事務局長:電気情報工学科 熊崎裕教、ホームページ管理:事務局長(熊崎裕教)

第19期(2012.4-2014.3.31) 若鮎会

会長	E3	坂井 善幸
副会長	M4	中野 廣幸
	D19	堀江 弘基
	C24	苅田 博行
	A1	川島 幸美津
会計	E5	桜井 邦彦
会計監査	M32	松尾 信裕
	D20	寺井 陽子
	C27	小倉 克則
	A1	溝口 和幸
理事	M15	中尾 賢治
	E6	小島 隆好
	D19	長峰 圭祐
	C25	松井 智一
	A7	青木 浩史
事務局長	E12	熊崎 裕教
事務局員	M18	石丸 和博
	D(M30)	小林 義光
	C12	和田 清
A事務局補佐	A10	吉田 茂樹

50周年記念事業実行委員会

実行委員長	E1	高津 正吉
実行委員	M1	桑原 喜代和
	M2	岩井 静克
	E2	奥野 泉
	D1	村山 智
	D1	南谷 利明
	C24	苅田 博行
	C26	中田 恵介
	A3	宇佐美 晃三
	A6	山田 重也
学校代表(研究主事)	E11	所 哲郎
学校代表(図書館長)	D教	長南 功男
オブザーバー	M1	井坂 一男
	M1	三口 栄一
	E1	大野 幸一
	C1	高崎 豊
	C2	国枝 重一
	C2	宇野 哲夫

編集後記

昭和57年4月に母校に就任して以来、若鮎会の再構築と岐阜高専20周年記念事業の実施、その後5学科体制の確立(従って10年周期の若鮎会事務局長)による30周年記念事業の実施、そして50周年記念事業となりました。次は、若鮎会の創立50周年を祝う予定です。関係者各位のご支援・ご協力をお願い致します。

(岐阜高専副校長 若鮎連携推進室長 所)

- ・4月 若鮎会会費徴収(入学時・終身会費)
- ・4月 教育後援会への業務委託費(H24年度より若鮎会で全額支出・各種依頼業務の取り次ぎ等)
- ・4月 引継会(隔年・M-E-C-A-D)
- ・9月 創造工学実習助成(専攻科2年生の試作品材料費)
- ・9月 全国同窓会組織への本校代表派遣・年会費支出
- ・10月 若鮎の部屋(高専祭日曜日昼食として寿司とお茶150人分を用意しています)
- ・12月 岐阜高専産官学テクノシンポジウム開催助成
- ・3月 卒業証書入れの教育後援会と折半での提供
- ・3月 卒業式若鮎表彰(5学科各1名)
- ・3月 卒業式若鮎基金表彰・若鮎会会長
- ・通年 同窓会住所録保守・管理(教育後援会委託)
- ・通年 同窓生からの証明書発行依頼サポート
- ・学校側各種事業の教育後援会との共同支援
- ・若鮎連携事業室による「中核人材育成塾」事業
- ・建設技術士有志会による学生教育支援
- ・産学官連携アドバイザーによる各種支援・地域連携協

岐阜工業高等専門学校同窓会 若鮎会

〒501-0495

岐阜県本巣市上真桑2236-2

岐阜工業高等専門学校内

TEL.058-323-8752

FAX.058-322-6571

E-mail wakaayu@gifu-nct.ac.jp



岐阜工業高等専門学校全学同窓会

・若鮎会ホームページ

<http://www.gifu-nct.ac.jp/wakaayu/>
(各学科ホームページへのリンク等)

・クラブ・同好会ページ

<http://www.gifu-nct.ac.jp/gakusei/club.html>
(各クラブや同好会のホームページ等一覧)

・教育後援会ホームページ

<http://www.gifu-nct.ac.jp/kouenkai/>
(教育後援会のホームページ)

岐阜高専50周年記念募金・50年史頒布申込み及び振込方法

下記口座にお振り込み願います(募金口座と記念誌頒布金納入口座は同じ口座です)。なお、誠に申し訳ございませんが、振込手数料につきましてはご負担をお願いいたします。また、お手数ですが、50年誌送付や入金確認作業のため、お振り込み後に、本紙にご記入後、下記へFAXもしくはメールで送信くださいますようお願いします。

○郵便局：00810-8-207221

ゆうちょ銀行 089 店(ゼロハチキュウ) 当座 0207221

加入者名 岐阜高専創立記念(ギフコウセンソウリツキネン)

○十六銀行 北方支店 普通 1392176

口座名義 岐阜高専創立記念(ギフコウセンソウリツキネン)

○西濃信用金庫 糸貫支店 普通 0102519

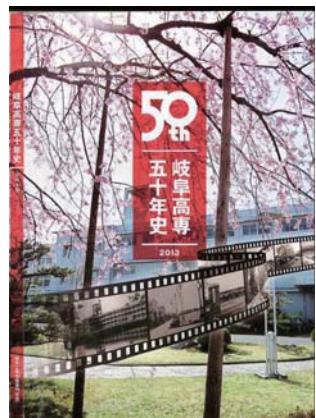
口座名義 岐阜高専創立記念(ギフコウセンソウリツキネン)

お手数ですが、お振り込み後に、FAXもしくはメールで送信願います。

送信先：岐阜工業高等専門学校 総務課財務係

【FAX】058-320-1240 【メール】zai1@gifu-nct.ac.jp

※メールの場合はメール本文に下記事項を入力の上、送信願います。



50周年記念募金・50年史頒布申込書

岐阜工業高等専門学校長 殿

平成 年 月 日

ご芳名・法人名等 _____

郵便番号 _____ -

ご住所 _____

電話番号または
メールアドレス _____

以下の該当箇所にチェックをお願いします。

卒業生(卒業学科 卒業年度 または入学年度)

教育後援会会員(在学生 学年 学科 氏名)

本校教職員及び元教職員

その他()

岐阜高専創立50周年記念事業推進のため、下記のとおり寄附いたします。(1口5千円)

岐阜高専創立50年史記念誌の頒布を下記のとおり申し込みます。(1冊5千円)

寄附口数 _____ 寄附金額 _____ 円

50年史頒布希望冊数 _____ 冊 頒布料金振込額 _____ 円 (5千円×冊数)

払込方法 1. 郵便振替 2. 銀行振込(金融機関名) _____

※番号を○で囲んでください。金融機関名をご記入ください。

払込日 平成 年 月 日 払込人名 _____

なお、ご寄附いただいた皆様方を顕彰させていただくため、ご芳名を本校ホームページに掲載させていただきます。掲載を希望されない場合は、次にチェックをお願いします。

ホームページへの氏名・法人名の掲載を希望しない。

また、領収書の発行を必要とされる方は、次にチェックをお願いします。

領収書の送付を希望する。(上記ご記入の住所へ送付させて頂きます)

※所得税・個人住民税の寄附金控除を受けられる場合は、申告をされる方(学生の場合は保護者の方)のお名前でご寄附ください。

※寄附金額と50年史頒布料金の合計金額をまとめて振り込んで頂ければ結構です。

例1: ご寄付1口と50年史頒布1冊のご希望の場合。5千円+5千円=1万円の払い込み。

例2: ご寄付2口の場合。1万円の払い込み。

例3: 50年史執筆者兼高額寄付者兼50年史贈呈者等で複数の50年史が送られてきたが1冊で良い場合。

→不要な50年史を岐阜高専図書館へご寄付頂ければ幸いです。広報活動等に有効活用させて頂きます。